

行政視察 長 浜 成 仁 議 員

日時：令和5年2月6日(月)～2月8日(水)

場所：長崎県長崎市、長崎県大村市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港第1・第2ターミナル駅	鉄道	往	111.7	1,560	1,250			2,810
羽田空港～長崎空港	飛行機	往				19,070		19,070
長崎空港～長崎駅前ターミナル	バス	往					1,000	1,000
長崎駅前ターミナル～試験場前	バス	往復					2,000	2,000
長崎駅前ターミナル～長崎空港	バス	復					1,000	1,000
長崎空港～羽田空港	飛行機	復				20,470		20,470
羽田空港第1・第2ターミナル駅～佐野駅	鉄道	復	111.7	1,560	1,050			2,610
								0
								0
								0
								0
計				3,120	2,300	39,540	4,000	48,960

宿泊料@16,500 × 2泊	33,000 円
交通費	48,960 円
(うち航空運賃)	39,540 円)
計	81,960 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 山野井 健

※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

令和5年4月21日

佐野市議会議長 山菅 直己 様

政友みらい 行政視察報告

議員名 長浜 成仁

1、期日：令和5年2月6日(月)～2月8日(水)(2泊3日)

2、視察地及び視察事項

- (1)長崎県長崎市「長崎駅周辺再整備事業」について (2月6日)
- (2)長崎県大村市「消化ガス発電事業」について (2月7日)

3、参加議員

小暮博志、山菅直己、川嶋嘉一、慶野常夫、神宮次秀樹、菰原政夫、長浜成仁

4、研修報告

(1)長崎市「長崎市駅周辺再整備事業」について

①長崎市の概要

- ・人口：399,142人(令和4年9月1日現在)
- ・面積：405.9km²
- ・議員定数：40名
- ・議員報酬：619,000円
- ・政務活動費：15万円(月額)
- ・長崎市は長崎県の県庁所在地として南西部に位置し、江戸時代には出島での貿易を通じて海外文化の窓口として栄えました。現在も大規模な造船所や工場などが湾岸に沿って立地しております。オランダ坂に代表されるような坂道が多く、歴史的建造物が残る港湾都市です。令和4年9月23日に長年取り組んで来た「西九州新幹線」が開業、また令和5年2月には18階建ての市役所新庁舎が完成し、業務が開始されました。

②研修内容「長崎市駅周辺再整備事業」について

- ・完成したばかりの長崎市役所新庁舎の議会事務局を訪問し、この整備事業についての説明を受け、その後、工事が進行中の現地に移動し、完成した駅舎や施設を視察し、今後進められる内容の概要について説明を受けました。(約2時間)
- この事業は、国が事業主体の「九州新幹線西九州ルート」と長崎県が事業主体

の「JR 長崎本線連続立体交差事業」、そして長崎市が事業主体の「長崎駅周辺土地区画整理事業」の3つの事業が相互に関連しながら進められていて、現在も進行中です(総面積約19.1ha)。そのような中、令和4年9月23日に念願であった西九州新幹線(武雄温泉駅から長崎駅間の5駅)が開業し、長崎駅も長崎の陸の玄関口・長崎の顔として幕屋根の新しい駅舎が誕生いたしました。前年に完成した西口のコンベンションホール「出島メッセ長崎」を始めとして、令和5年には東口に新駅ビルやホテル等、そして令和7年には東口の交通・多目的広場等が完成し全体計画が完了予定となっているようです。長崎市としても、新幹線の開業を含めたこの駅周辺再整備事業が一時的なものとならないよう、周辺市と連携しながら更なる地域の活性化に取り組むとのことでした。

(2)大村市「消化ガス発電事業」について

①大村市の概要

- ・人口:97,704人(令和4年3月末現在)
- ・面積:126.73km²
- ・議員定数:25名
- ・議員報酬:40万円
- ・政務活動費:30万円(年間)
- ・大村市は長崎県のほぼ中央に位置し、大村湾に囲まれ、豊かな自然に恵まれた環境となっております。世界初の海上空港である長崎空港を有し、交通アクセスの利便性から、たいへん住みやすいまちと言われ、人口が着実に増加している県内唯一の市として発展を続けております。令和4年9月の西九州新幹線開業に伴い、新駅「新大村駅」が新しい顔として誕生しました。

②研修内容「消化ガス発電事業」について

- ・大村市の大村浄水管理センターを訪問し、約2時間弱の時間で、消化ガス発電事業に関する説明を受け、発電設備や下水処理の状況などを視察させていただきました。

この消化ガス発電事業は、平成23年の東日本大震災がきっかけとなり、さまざまな分野また、国民のエネルギーに対する意識が変わり、平成24年の電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法が施工され、固定価格買取制度(FIT)を活用した売電による発電事業が可能となった事によりスタートしました。その後、大村市として公設公営や民設民営などいくつかの方式を検討した結果、民設民営の方式を取り入れ、平成26年7月より発電を開始したと言う事です。その内容は、下水処理現場で発生する消化ガスを、電気業者に売却し発電事業を行うもので、下水道資源を有効利用し、化石燃料に依存しな

いエコロジーな発電でCO²の削減に貢献する事業となっていました。この民間民営方式による消化ガス発電事業が先例の少ないものであったため、これまでに（佐野市を含めて）全国各地から視察訪問があったとお話をされておりました。

・事業説明の様子(長崎市)



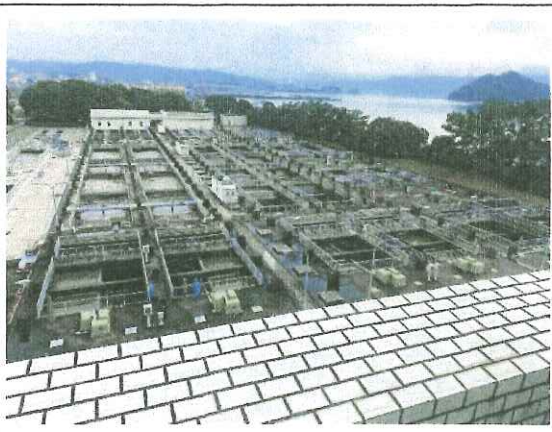
・長崎市駅周辺再整備事業現場



・事業説明の様子(大村市)



・浄水管理センター処理場(大村市)



5、所 感

・所感

長崎県長崎市の「長崎駅周辺再整備事業」については、西九州新幹線開業に伴うもので新しい玄関口・新しい長崎市の顔として整備中のものである。担当者より様々なお話を伺いした。特にこの駅周辺再整備事業が一時的なものとならないようにしていきたいということで、非常に参考になった。本市においては、第2次佐野市中心市街地活性化計画を基に中心市街地の活性化に取り組んでいる最中であるが、戦略的まちなか活性化エリアに指定されている佐野駅・佐野市役所周辺のさらなる賑わい創出のために今回の視察は活かせるのではないかと考えている。

長崎県大村市の「消化ガス発電事業」については、平成26年7月より行っているとのことであった。この事業のきっかけは平成23年の東日本大震災である。様々な資源の有効活用として下水道資源の有効活用は、エネルギー資源の多様化・化石燃料に依存しないエネルギー確保等、学ぶところがあった。本市においても消化ガス発電は導入されているが、その先駆けとして大村市の事業を視察できたことは大変有意義なものであった。しかしながら、このような資源の有効活用については市民の認知度は低いように思える。このような事業を行っているというPRも必要だと感じた。

今回に視察において学んだことをしっかりと今後の議員活動に活かし、少しでも市政発展のために役立てていけるように努力をしていきたいと思う。